

エルサルバドル国

オロメガ湖・ホコタル湖統合的湿地管理プロジェクト

2017年9月6日

自然環境部 長濱 幸生

2016年3月から中米エルサルバドル国のオロメガ湖・ホコタル湖統合的湿地管理プロジェクトに環境教育/湿地管理専門家として参加しています。今日は、プロジェクトの背景とこれまでの主な活動についてご紹介したいと思います。

湿地は多様な生物を育み、特に水鳥の生息地として非常に重要です。しかし湿地は、干拓や埋め立てなどの開発の対象になりやすいために、積極的に保護をする必要があるという認識が国際的に高まりました。そして1971年にイランのラムサール（カスピ海沿岸の町）で開催された国際会議にて、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促し、湿地の適正な利用を進めることを目的として、ラムサール条約が採択されました。本プロジェクトで対象としているオロメガ湖とホコタル湖は、ラムサール条約に登録されているものの適正な管理が行われていませんでした。そこで本プロジェクトでは、エルサルバドル国において湿地の統合的管理を推進するための組織体制を整備することを目的として活動をしています。プロジェクト期間は2021年3月までの5年間で、相手国の環境省と仕事をしています。

私の最初の担当業務は、プロジェクト対象地の生物多様性や生態系に関する情報を収集し、現在の管理方法の問題点を明らかにすることでした。文献を収集してみると、過去に作成された管理計画やゾーニングマップが入手できました。また鳥類に関しては、学術論文もいくつも入手することができました。さらに首都サンサルバドルから南東へ車で2時間ほど移動して、オロメガ湖やホコタル湖周辺の県庁、市役所、NGO、市民団体、漁業者などにインタビューも行いました。得られた情報から3つの問題点が明らかになりました。ひとつは、人間活動による湿地環境への負荷が増えていて湿地の水質が悪化していること、もうひとつは、外来生物によって生態系が影響を受けていること、そして最後に、環境省、県庁、市役所、地元の人々が環境に対して共通の問題認識を持っているにもかかわらず、お互いが連携をして活動する仕組みが無いことです。

次にプロジェクト対象地域の生物多様性の現状を知るために、生物多様性調査を開始しました。我々の調査によって、絶滅が心配されていた淡水二枚貝がまだ両湖に生息していることが明らかになりました。調査は現在も継続しています。

次に、明らかになった問題点を解決するための湿地管理計画作成に着手しました。そして管理計画の最終章では、湿地環境保全のために生態系分野から、取り組むべき対策をまとめました。現在は、その対策案を基に日本人専門家が中心となり、議論を重ねています。そして生態系分野から2つのパイロットプロジェクトが立ち上がりつつあります。ひとつは、

侵略的外来植物を駆除することによる湿地生態系の回復を目的としています。もうひとつは、環境教育を通じて湿地の価値をプロモートすることを目的としています。

次回の派遣では、パイロットプロジェクトの内容を具体化するための作業や生物多様性調査の進捗を確認いたします。エルサルバドル国民にとってもアメリカ大陸を移動する水鳥にとっても貴重な両湖の生態系保全活動を軌道に乗せるべく活動を進めてまいります。

*JICA 自然環境保全ナレッジマネジメントネットワークニュースレターのキャリア形成インタビュー欄に掲載されました。

自然環境だより（第14号）2017年6月27日

https://www.jica.go.jp/activities/issues/natural_env/ku57pq00001leyqb-att/201706.pdf

活動写真



Photo 1: オロメガ湖



Photo 2: ホコタル湖



Photo 3: 対象地域の住民、市役所、県庁、環境省参加によるワークショップ



Photo 4: 環境省職員と共に関係市役所を訪問して、担当者から聞き取り調査



Photo 5: 世界湿地デーのイベントに参加



Photo 6: 地元住民への聞き取り調査